

自由民主党「バス議員連盟総会」が開催されました

令和6年2月14日（水）、自由民主党「バス議員連盟総会」が開催されました（於 自由民主党本部101号室）。衆・参49名の先生方にご出席いただきました。

日本バス協会からは清水会長はじめ、宮本副会長、古川環境対策委員長・外国人運転者受入推進部会長、早川税制対策委員長、平位 IT 情報化推進特別委員長などが出席しました。

冒頭、バス議連会長の逢沢先生より、本日の議連は、主に、令和6年度のバスに関連する予算について、また、バスのEV化の現状と今後の取組について確認していきたい、とのご挨拶がありました。

続いて清水会長から、年始に起きた能登半島地震においてバスはその役割をしっかりと果たしていること、切実な問題である運転者不足の問題を解決するには、今後、定期的に運賃改定をして原資を確保し賃上げをしなければならないこと、外国人運転者導入への支援をお願いしたいこと、今年の4月から貸切バスの安全性向上への新制度が始まるが、悪質な事業者をぜひ退出させてほしいこと、また、キャッシュレス化の推進や自動運転についてもご出席の先生方へ支援をお願いしました。



この後、国土交通省より、令和6年度のバスに関連する予算、運転者不足対策、EVバス補助に関すること、乗合バスの運賃改定実施状況の報告等があり、続いて、いすゞ自動車(株)及び(株)EVモーターズ・ジャパンより、EVバスの開発の状況とその課題について説明がありました。

出席された先生方からは、貸切バスの安全規制強化に関して、真面目に取り組んでいる事業者を突き詰めるようなことはしないように、また、自動運転の実用化について実験段階から実用段階に移行する時期を早めるべき、といった多くのご発言をいただきました。

これらに対し、国土交通省からは、悪質な事業者へ、どう対応していくかを考えしっかりした監査を徹底していきたい、自動運転の実証実験については、予算を昨年度から大幅に増額してもらったので、実用化、実装化を一日も早く進めていきたい、などの発言がありました。

最後に逢沢会長より、（本年4月より開始される）賃上げ促進税制を多くのバス事業者が活用できた、となるよう努力していきたい、という力強いお言葉をいただき終了しました。